

【自然環境】

トカラ列島の最北端に位置し燃岳に象徴される火山島で、島のほぼ中央にそびえる前岳(682 m)山麓に広がる原生林からセランマ温泉にかけて、野生牛(黒毛和牛種)の姿が見られる。また、前岳のやや西に位置する横岳(501m)には、山頂まで舗装道路が延び、トカラ列島の島々を望むことができる。

面積は 13.33Km²、周囲の大きさは 20.38Km、動植物にはタモトヨリ、アダン、トカラヤギ、野生牛がおり、土地の利用状況は牧場、水田、畑などである。

今回実習で口之島を訪れてみて、とても坂の多い島だと感じた。いままで経験したことがないような傾斜の坂が多く、車なしでは厳しい環境だと感じたし、今回は雨が降っていて、多くを見ることができなかったが、トカラヤギと海だけは見ることができた。また、フェリーのみでしか行くことができないので、船酔いがひどい人は大変で、私も酔いそうになった。

【社会的背景】

人口は 128 人(女性 67 人、男性 61 人)で、年少人口が 18 人、生産年齢人口が 59 人、老年人口が 51 人である。高齢化率は女性が 44%、男性が 34%で、計 39%である。

産業については今回の実習で見ることができたのは、漁業と民宿が多いのではないかと感じた。実際、今回の宿泊先では民宿と漁業の両立をしているのではないかとと思われる。

歴史としては、口之島という地名は江戸期よりあり、薩摩国川辺群のうちであり、1896 年に川辺群から大島郡に移管され、1908 年に島の全域が十島村の大字「口之島」となった。第二次世界大戦終了後、口之島はアメリカ合衆国臨時北部南西諸島政庁の施政下となったが、1952 年にトカラ列島が本土復帰したのに伴い、十島村(としま村)が発足し十島村の大字となった。

【住民の生活】

口之島の集落は口之島と西之浜からなり、お祭りとしては霜月祭りがある。霜月祭りとは旧暦 11 月に行われる祭りで、島内のお宮に新米で作った酒やサトイモを供え、家族の健康と農業の豊作を祈る祭りである。トカラ列島でも由緒ある祭りある。

今回訪ねてみると、島の売店は 1 件しかなく、市内で買う価格よりも少し高く感じた。また、ガソリンスタンドは見かけなかったが、郵便局は見かけた。船は毎日出てはいないので、到着時、出発時には多くのコンテナがあり、多くの島民が荷物を取りに来ていた。

【医療供給体制】

今回廻った範囲内では、医療施設のような建物は見当たらなかったが、ヘリポートが島内にある。なので、緊急時にはヘリポートを活用すると思われる。

【実習概要】

日付	内容
7/4	ろう義歯試適 ブリッジの装着 コンポジットレジン充填 抜歯 根管貼薬 義歯修理 義歯調整

【振り返り記録】

今回の実習では、限られた機材の中で処置を行わなければならなかったため、今まで大学内で行ってきた実習とは違い、小器具の滅菌も、薬液を使い分けながら使用後その場で直ちに行い、次の使用に備える必要もあった。

また、離島巡回診療ではすべての工程を一度に終わらすことも難しく、抜歯をした後のその後の経過観察や補綴物の作成などができないので、処置の判断が難しそうだと感じた。

今回の診療では、継続治療の患者さん以外はあまり治療を受けにいらっしやらなかった。島民の方はあまり口腔内に関心がない可能性もあるので、検診や予防的な処置の重要性についての情報発信も必要ではないかと感じた。

